

## 卓越大学院プログラム 事後評価結果

機関名	名古屋大学	整理番号	1810
プログラム名称	未来エレクトロニクス創成加速 DII 協働大学院プログラム		
プログラム責任者	藤巻 朗	プログラムコーディネーター	天野 浩

### 卓越大学院プログラム委員会における評価

<p><b>【総括評価】</b></p> <p>A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。</p>
<p><b>【コメント】</b></p> <p>卓越した学位プログラム、「知のプロフェッショナル」を養成する体制等の構築については、学内トップクラスの研究者に加え、21名の民間企業からのメンター、6名の研究機関からのメンター、6名の海外連携研究機関・大学からのメンターとともにDII協働大学院プログラムを実施している。また、30年かかった研究～実用化を10年に短縮するメッセージや Deployer、Innovator、Investigator という3つの人材ビジョンを示し、研究+事業化（社会貢献）という在学中から大学院修了後のキャリアパスまで学生の視点を拡張する教育指導体制を推進している。これらの体制・制度並びに取組は着実に学生の高度な知のプロフェッショナルへの育成を実現しており、高く評価できる。</p> <p>修了者の成長については、在学中から多数の学生チームがビジネスプランコンテストなどに入賞するなど単なる研究のプロフェッショナルにとどまらない、社会人としての知のプロフェッショナルとしての素養を發揮している。特に学生自身が学年を横断して自ら申請支援・キャリアパス室のサポートを受けながら多くのスタートアップ資金を獲得していることも高く評価できる。</p> <p>キャリアパスの構築については、修了生は第1・2期生合わせて57%が民間企業、43%が大学、研究機関に就職しており、バランスよくキャリアパスが形成できている。これらの成果は大学としてのキャリアパス支援にとどまらず、産学並びに国内外研究機関連携によるメンターのアドバイスも大きく寄与していると思われる。</p> <p>大学院全体への波及効果及び事業の継続・発展については、博士課程教育推進機構を核として教養教育院、Dセンター、MDSセンター並びに各研究科連携のもと、学位プログラムへのマイグレーションシナリオも確立、令和8年度からのスタートが計画されている。特に本計画は本プログラムにとどまらず、他3つの卓越大学院プログラムを含めて3つの学位プログラム、各2つの教育コースを設定、設置が計画されているところは大学院全体の改革として稼働を開始していると考えられ、高く評価できる。一方、新学位プログラム開始・継続の最重要課題となる学生の獲得についてはその取組が学内、さらには学部内に閉じた取組に留まっているように見える。今後学生獲得に向け、学内外、国内外に視野を広げ社会人履修生や留学生の獲得に向けた取組の強化が不可欠である。今後、プログラムの内容に加えて現履修生・修了生のプログラムによる成長や社会での活躍を発信する等、学生が実感できるプログラムの魅力の発信を通じ、学生獲得に向けたさらなる努力に期待したい。</p>

事後評価結果案に対する意見申立て及び対応

機関名	名古屋大学	整理番号	1810
プログラム名称	未来エレクトロニクス創成加速 DII 協働大学院プログラム		
プログラム責任者	藤巻 朗	プログラムコーディネーター	天野 浩

意見申立て内容	意見申立てへの対応
<p><b>【申立て箇所】</b> (第4段落7行目～9行目)</p> <p>また学生獲得に重要なプログラムの魅力の発信がプログラムコーディネーターの知名度に依存しすぎているように思われ、プログラム自身の魅力を発信する努力に今後期待したい。</p> <p><b>【意見及び理由】</b> 意見：上述の文章を「また学生獲得に重要なプログラムの魅力を発信する努力に、今後期待したい。」と言った表現に変更願いたい。</p> <p>理由：プログラムコーディネーターの知名度に依存しすぎているという表現は憶測に基づくもので根拠が感じられない。実際、青色 LED の開発に関し「30 年を 10 年に」といった表記をした以外は、学生募集の際も含め、コーディネーターがノーベル賞受賞者といった表現は口頭でも全く行ったことがない。また、履修生が本プログラムに応募する際は、すでに配属研究室は決まっており、少なくともこれまでは上述（1）に該当することは明確ではない。</p>	<p><b>【対応】</b> 以下のとおり修正する。</p> <p>今後、プログラムの内容に加えて現履修生・修了生のプログラムによる成長や社会での活躍を発信する等、学生が実感できるプログラムの魅力の発信を通じ、学生獲得に向けたさらなる努力に期待したい。</p> <p><b>【理由】</b> ご意見をいただき、審査・評価部会としては「プログラムコーディネーターの知名度に依存する」という部分は委員の感想に留まるものであり、さらに個人を特定する表現であることから公開文として記載することはふさわしくないと判断した。一方で審査・評価部会としては学生獲得に向けた効果的な取り組みが確認できなかったという認識である。学生の獲得は将来、プログラムそのものの継続にも大きく影響することから、より一層の努力を図っていただくべく、上記のように修正した。</p>